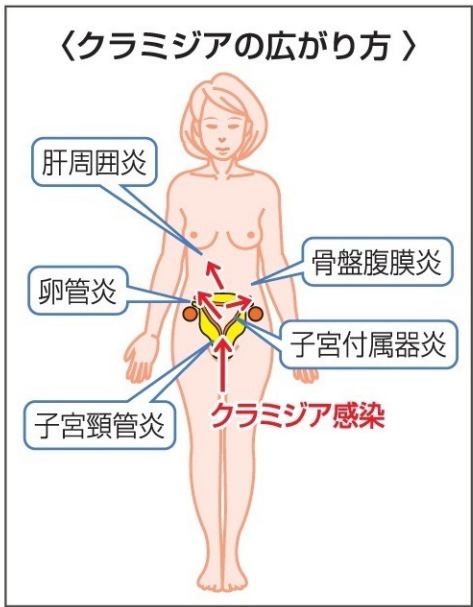




皆さんはクラミジアという言葉をご存知ですか。一度は耳にしたことがあると思います。クラミジアは細菌の一つで、性行為で広がる性感染症の中で最も流行しているものの一つです。性行為経験のある女子高生生の1〜2割がクラミジアに感染しているという報告があるほど、若い女性に急増しています。その背景には性行為の若年化、多様化、そして性行為感染症に対する無関心があります。クラミジア感染は放置すると不妊症の原因となります。今回はクラミジア感染症について考えてみましょう。

クラミジア感染症



9割が自覚症状なし

前後の人は自覚症状がほとんどないことから、気付かないうちに感染しています。なので、少し違和感があったとしても、検査にまでは至らず、長い間感染を放置してしまい



産婦人科医

今井篤志氏

無治療のままでは、クラミジアは子宮・卵管を通じて腹腔内に広がっていきます。Ⅱ。卵巣や卵管に感染が及ぶと「子宮付属器炎」と言い、骨盤全体に広がると「骨盤腹膜炎」と言います。下腹部に激痛が走り、ひどい場合には救急車で搬送される人もいます。子宮付属器炎が長引いたり何回も繰り返すと、卵管の働きが失われたり卵管が詰まった

れ、さらに症状が悪化することも起こります。クラミジア感染症はクラミジア菌の遺伝子の有無で診断します。これは非常に鋭敏で有用な検査法です。多くの細菌は抗菌薬に抵抗性を示すことがありますが、抗菌薬が効かないクラミジアは今のところ知られていないので、適切な抗菌薬の使用で治ります。クラミジア感染症と診断さ

若い女性に急増、放置で不妊にも

れた場合は、パートナーの治療も併せて行う必要があります。パートナーに症状がなくても、症状が出ないクラミジア感染症の可能性があるので、パートナーの十分な検査・治療が必要です。また、予防には正確な知識を持つことと、コンドームの使用が重要です。性行為の経験を持つ女性が、黄色帯下、性行為後の出血、下腹部痛、右上腹部痛を訴えた場合は、クラミジア感染を念頭に置く必要があります。また、繰り返しますが、クラミジア感染症の9割は症状を認めません。米国では特に症状を認めなくても、25歳以下の性行為経験のある女性、25〜30歳でパートナーが変わった人、複数のパートナーがいる人はクラミジアのスクリーニングが推奨されているほどです。子宮頸がん検診を含めた定期的な検診を受けることが大切です。(松波総合病院腫瘍内分沁センター長、羽島郡笠松町田代)